

令和7年3月

志布志港における地震津波による港内漂流物の移動解析と 航行船舶に及ぼす影響に関する調査研究委員会

1 委員会報告書概要

南九州の物流の拠点である志布志港は、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震とそれに伴う津波による災害発生が懸念されるが、同時に災害発生時にあっても南九州全体の救助・救援の拠点機能を果たすことが期待される重要な港湾である。

本委員会では、津波による港内漂流物の航行船舶への影響の観点から、志布志港を利用する船舶が取るべき対応や航行再開に必要な復旧等について調査研究を行った。

ドローン等を使用した現地調査により港内に多数の貨物等があることを把握したことから、これらを配置場所に応じてグループ化し、移動解析により互いの干渉等を確認しつつ漂流状況を推定した。

この推定結果を基に、船舶の港外退避への備え、航行が困難になる海域の把握、航行の再開に必要な航路啓開作業等について、概ねの目安や考え方を取りまとめた。しかし、この結論は、前提となる仮定や条件設定の差異、風潮流や河川流等の影響により大きく変わることから、今後の課題や留意点についても整理した。

2 調査等概要

- (1) 航行環境
- (2) 現地調査結果の整理
- (3) 移動解析の実施と今後の課題・留意点の整理
- (4) 航行船舶への影響の検討
- (5) 調査研究結果のとりまとめ